

# センターだより



阿南市青少年健全育成センター No.167 (令和3年度 冬号)

令和3年12月8日

## 3 シリーズ「ネット依存」③

前回、「子どもたちが変化している」ということをいろいろなデータを示しながら紹介しました。①自分よりも友だちを優先する。②その友だち関係を維持するためにSNSが必要になっている。③しかし、そのSNSの活用が、窮屈なものになっている。

今回は、さらに変化している子どもたちの周りの環境について認識を深めていただければと思います。

### (1) 家庭意識の変化

ネットやスマホによって生活あるいは意識に変化が生じているのは、子どもたちだけでなく親の方も同様です。

#### 親もスマホに熱中

顕著な例で言うと、近頃は若いお母さん達の間、つまりママ友同士でもLINEやtwitterを介したつながりがとても密になっていて、そこで特定の誰かを仲間はずれにするという子どものいじめと同じことが起きています。そのため、中高生と同様に母親達も必死でソーシャルネットワークの世界についていかなければならない。そしてそういう親のふるまいに影響された子ども達は、ネット依存になる傾向があるのです。

あるいは、幼い子が騒いでうるさい時に、自分で注意せずにスマホを与えて静かにさせるなど、完全に誤ったネットの使い方をしてる親も少なくありません。さらに親がゲーム好きで家族そっこのけで熱中したり、父親が帰宅後もパソコンでずっと仕事をしたりしている姿を見て「ずっと使ってもいいものなんだ」と思ってしまう子どももいるようです。

#### 親のネットの使い方を見て育った子ども達が、ネット依存になっていくというケースも増えています。

相談機関には、子どもだけでなく、大人の依存の相談も多く寄せられるようになっていますが、そうした大人のネット依存が子どもに影響を与えるということが家庭内では起きやすいのです。大人にはその点をしっかり意識してほしいと思います。

### (2) 学校環境の変化 ～スマホ持ち込み・ICT教育～

文部科学省が、2020年7月に中学校へのスマホの持ち込みを「条件つきで容認する」という方針を示しました。今後中学校でも携帯やスマホの持ち込みが許されるようになってくるでしょう。

「インターネットを使用している3歳児が約40%もいて、そんな状況を懸念している」と、センターだよりでも申し上げてきました。

しかし、そんな心配をよそに「GIGAスクール構想」が始まり、2021年新型コロナウイルス感染症の拡大を受け全国の児童・生徒1人に1台のタブレット端末が配付されました。これで全ての児童生徒にネット環境が整ったと言えます。

このように「ICT教育」の急速な導入により、学校教育も大きく変化しているのです。

### (3) 定額制で使い放題

ところで、ネット依存の問題は、Windows95が発売された1995年頃には、すでにアメリカで起きていて、「ネット依存というものがある」と、提唱した人もいました。しかし、当時のネット接続は、使った分だけ料金が発生する従量制でしたから、その頃ネットにはまるという問題を抱えていたのは、経済的に恵まれた人などほんの一部のユーザーに限られていました。

それが現在では、定額制で使い放題というのが普通です。しかもいろいろな割引があって、誰もが機器を買いやすく、また長時間使いやすくなっています。

#### 経済的負担の軽減も、ネットに依存しやすい状況を作り出しています

### (4) 生活形態の変化も影響か

保護者が共働きの家庭では、子どもにスマホや携帯電話を持たせ、それで連絡を取るようになります。面と向かったコミュニケーションよりも、そういうものを使わざるを得ないような関係が普通になってくるのです。

食事も、子どもにお金を渡して「じゃあ今日は外でご飯食べて来てね」と言う。すると子どもの方は、LINEで「今日一緒にメシ食べる人いる？」と、友達と連絡し合っ、みんなでどこかに集まって食べる傾向が増える。

しかも連絡を取るのに、コンビニは24時間Wifiがつながるので、特にこれといった不便もありません。こういった変化も、微妙にですが、依存の増加に影響を及ぼしているのです。

## 1 センター行事もありました



朝のあいさつ運動 (11/15) 羽小



第2回健全育成研修会 (11/16)



不審者対応訓練 (11/12)



風車出前授業 (11/10)

## 2 インターネット上の誹謗中傷に関する相談窓口の案内 (総務省)

もし、保護者・先生・友人に相談しづらいと思ったときは、専門の窓口を積極的に利用してください。

### インターネットの誹謗中傷の被害にあった場合

